

＝プレスリリース＝

平成25年5月23日

岩手県内企業景況調査結果
—平成25年4月調査—

標記について、概要を取りまとめましたので公表いたします。
なお、詳細は機関誌「岩手経済研究」25年6月号に掲載しております。

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階

一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 小田真一)
TEL 019-622-1212

岩手経済研究所

〈 調査結果の要約 〉

－回復の動きが弱まる－

1. 最近の業況感

県内企業の最近の業況は、業況判断BSIがマイナス27.3となり、前回調査（25年1月、以下同じ）を10.4ポイント下回り5期連続で悪化した。24年10月の調査以降マイナスの状況が続いており、復興需要等を背景にした回復の動きが一段と弱まっているとみられる。

円安の流れとなり輸出環境が改善されてきた一方で、欧州など世界経済の減速が続いていることや、原油等資源価格が上昇していることから、生産の回復がまだ本格化していないことが要因としてあげられる。また、公共工事を中心に復興に関する需要は旺盛になってきているものの、震災直後の特需が弱まり、個人消費の持ち直し傾向が鈍化していることなども影響しているとみられる。

産業別では、**製造業**がマイナス49.1となり、マイナス幅が拡大した。すべての業種で悪化の動きとなり、特に電気機械や金属製品は市況の低迷が続いていることから厳しい判断を示している。また、食料品やその他製造業（印刷・鋳物等）も震災特需の減少などでマイナスの状況が続いている。一方、窯業・土石や木材・木製品は震災復興関連工事や被災地の住宅建設の増加などにより悪化の度合いは低くなっている。

非製造業はマイナス16.6となり、製造業と比較すると小幅な悪化となった。サービス業（宿泊業等）は観光客の入込みが低調なことからマイナス幅が拡大したが、その他の業種はほぼ横ばいとなった。また、建設業は復興関連工事の受注でプラスを維持している。

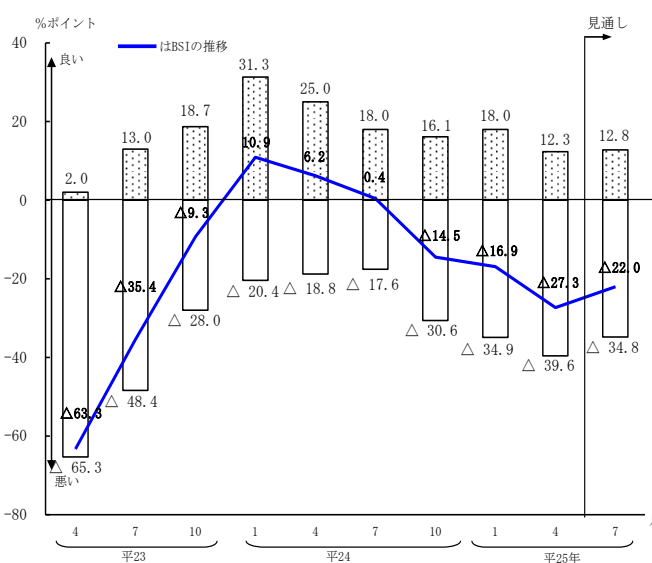
2. 先行きの業況感

今後3カ月間の先行きは、マイナス22.0と現状を5.3ポイント上回っている。マイナス幅は僅かながら縮小する見通しであるが、海外経済の減速感が続いていることや、個人消費も弱い動きとなっており、景気の先行きについて依然として慎重な見方が多くなっている。

業況判断BSI (「良い」「悪い」・%ポイント)

業種	期	最近		先行き
		平成25年1月調査	平成25年4月調査	今後3カ月間
全産業		△ 16.9	△ 27.3	△ 22.0
製造業		△ 26.2	△ 49.1	△ 26.2
食料品		△ 56.2	△ 60.0	△ 33.3
木材・木製品		14.3	△ 11.1	22.2
窯業・土石		33.3	0.0	50.0
金属製品		△ 44.5	△ 71.4	△ 85.7
一般機械		△ 16.6	△ 25.0	25.0
電気機械		△ 30.0	△ 72.7	△ 63.6
その他		△ 27.3	△ 54.5	△ 27.3
非製造業		△ 12.1	△ 16.6	△ 19.8
建設業		12.0	15.0	0.0
卸売業		△ 23.6	△ 23.3	△ 21.0
小売業		△ 15.1	△ 12.9	△ 35.4
運輸業		△ 42.8	△ 42.9	△ 42.9
サービス業		△ 8.0	△ 28.0	△ 8.0

業況判断BSIの推移（全産業）



(参考)

< 調査要領 >

1. 調査内容

平成25年4月調査時点での業況感と先行き（3カ月間）の見通し、ならびに25年1～3月期の前年同期と比較した売上高等の実績および25年4～6月期の前年同期と比較した岩手県内企業経営者の見通し等。

2. 調査時期

平成25年4月中旬

3. 調査対象企業

岩手県内企業 350社

4. 回答企業

製造業	64社
建設業	22社
卸売業	43社
小売業	32社
運輸業	8社
サービス業	25社
合計 (回収率)	194社 (55.4%)

(注) BSI (Business Survey Index : 景況判断指数)は、企業の業況実績や企業経営者の業況見通し等を指標化したもので、「プラス (増加、上昇、過剰等) 」と回答した企業割合から、「マイナス (減少、下降、不足等) 」と回答した企業割合を差し引いた値である。